

「京都における日本近代文学の 生成と展開」班を終わって

研究班主任 三 谷 憲 正

本研究班は、総合研究所「京都」分野の予備研究（一年間）として平成一五年四月より始まったものである。出発当初の班員は次のとおりである（所属等は当時）。

【研究組織】

三谷 憲正	兼担研究員	「研究代表」/ 京都・評論
中河 督裕	嘱託研究員	「副代表」/ 関西（大阪）
高場 秀樹	研究協力者	「総務」/ 京都・美学
（事務補助者）		
内田 晶	本学博士課程	「研究会記録整理」/ 京都・近代詩（象徴詩）
金 相二	本学博士課程	「海外」/ 京都・「朝鮮人」文学者
渡邊 浩史	本学博士課程	「実地踏査」/ 京都・近代詩（モダニズム詩）
安福 智行	本学博士課程	「連絡担当」/ 京都・時代
青木 京子	本学博士課程	「企画運営」/ 京都・小説

以下、研究会の報告を行う。

第一回研究会

日時：2003（H15）年5月31日（土）午後2時

場所：佛教大学・9号館3階・総研分室

発表者：三谷憲正（ミタニノリマサ）……主任研究員（本学教授）

発表題目：「京都と近代文学」—川端康成『古都』を例として

第一回目は、三谷主任研究員が担当。研究会の方向と文献の紹介を行い、一つの例として川端康成の『古都』を取り上げ、そこに描かれている〈京都〉の表象についての考察を試みた。川端はエッセイ（「古都など」）の中で「古都としての京都の町はや

がて壊されてなくなつてしまふ、戦後のつまらぬ地方都市のやうになつてしまふと、私は京都の人にもいつた」と述べている。だが作品では衰滅していく下降線を辿りつつも、その一方では若人たちの新しい芽がめばえ、新旧の交代が暗示されている。おそらく、その中で浮かび上がってくるのは、京都が一面確かに〈伝統〉の都であったものの、しかし、実はもう一方には〈人工〉の都市京都、という側面を持っていたのではなかったか、という点である。おそらく明治から昭和の初年代までは、京都を含む関西の文化圏が関東のそれを凌駕し、むしろリードしていた面もあると考えられる。〈伝統〉と〈人工〉。京都の持つそのような二つの側面を、この研究会の活動を通じて明らかにできれば、と考えている。なお、出席者は班員3名、院生7名であった。

第二回研究会 祇園祭の太鼓の音も聞こえだした第二回目は、以下のとおりである。

日時：2003（H15）年7月19日（土）午後2時

場所：佛教大学・9号館3階・総研分室

発表者：中河督裕（ナカガワヨシヒロ）……嘱託研究員（大阪府立四條畷高校教諭）

発表題目：国定教科書における〈京都像〉

発表題目の取り方からして、既に興味をわかせる発表であった。明治期から昭和期の終戦までの小学校国語教科書を資料として、その中に描かれた〈京都像〉を考察したものである。「京都」は、「東京」「大阪」とともに、「三府」としてくぐられ、製造業の盛んな都である面と、また一方山川の美しい場所として登場してきている。例えば、『高等小学読本』巻之一（明21・5）では、「東京、大坂、京都ハ、最モ繁盛ナル都会ニシテ、全国ノ都府ト称シ、是ヲ三府ト称ヘ来レリ」とあり、また『尋常小学読本教本』巻六（明27・11）には「此ノ地ハ、工業殊ニ盛ニシテ、其ノ名高キ産物ニハ、宇治茶、西陣織、清水焼等アリ」と記されている。「古都」というタームが使われるのは、昭和八年の教科書からである。このあたりに〈京都像〉の転換が行われたと考えられるのではないか、という推論であった。今回も参加者は、班員3名、院生7名。

第三回研究会

日時：2003（H15）年10月4日（土）午後2時

場所：佛教大学・9号館3階・総研分室

発表者：田中励儀（タナカレイギ）……同志社大学文学部教授

発表題目：『祇園物語』の成立過程 ―泉鏡花と〈京都〉

京都に造詣の深い田中氏は『新編 泉鏡花集』全十巻・別巻一（岩波書店）の編集者の一人であるが、京都に泉鏡花の「祇園物語」を取り上げ、鏡花が京都へ来た年月の確定や、また京都でどのようなものを見、どのような体験をしたのか、などについて発表した。綿密な資料を基に、重厚な推論であった。

第四回研究会 師走の候の第四回目の研究会は以下のとおりであった。

日時：2003（H15）年12月20日（土）午後2時

場所：佛教大学・9号館3階・総研分室

発表者：高場秀樹（タカバヒデキ）……佛教大学総合研究所研修員

発表題目：三島由紀夫と〈京都〉—『金閣寺』を中心に

三島由紀夫は京都を舞台とする作品を多く手がけている。その中でも『金閣寺』は他の作品を抜き、すぐれた達成度を示しているといえよう。今回、高場氏は、特に主人公の郷里京都府北部の舞鶴に焦点を絞り、京都との関連を考察した。

第五回研究会 新年最初の発表である。

日時：2004（H16）年1月31日（土）午後2時

場所：佛教大学・9号館3階・総研分室

発表者：内田 晶（ウチダアキラ）……佛教大学大学院博士課程

発表題目：吉井勇と〈京都〉—『酒ほがひ』『祇園冊子』を中心として

吉井の経歴や吉井自身の「自歌自釈」や随筆といった言説によって、彼が京都・祇園と出会い、一連の祇園歌を生み出す経緯を探るとともに、当時の祇園・円山公園・鴨川などの様子を地図や観光案内、写真等でたどった。その上で吉井の祇園歌に見られる〈京都〉表象には、〈京都〉とパリを重ねて描くことで近代都市的側面を詠み込むといった、従来見落とされがちな特徴が見られることを指摘した。また、京都に暮らした晩年の歌との繋がりについても考察を試みた。

第六回研究会 早春の候の第六回目の研究会であった。

日時：2004（H16）年3月27日（土）午後2時

場所：佛教大学・9号館3階・総研分室

発表者：青木京子（アオキキョウコ）……佛教大学大学院博士課程

発表題目：志賀直哉と〈京都〉—『暗夜行路』を中心として

志賀直哉における〈京都〉を考える時、まず想起されるのは『暗夜行路』である。

その後篇第三部が〈京都〉を舞台とした物語となっている。本発表では、『暗夜行路』には風光明媚な景観や交通等、〈京都〉ならではの表現が多い点に着目し、〈京都〉に対応する箇所をピックアップし、地名（通り）、芸術・年中行事、交通、料理・茶屋などに分類し、「志賀直哉日記」と比較することにより、『暗夜行路』の作品世界を読み解いた。また、『暗夜行路』には、「古い」と「新しい」、「朝」と「夜」、「人工」と「自然」等の使い分けがされているおり、それらに着目することにより、志賀直哉における〈京都〉像をさぐった。

佛教大学総合研究所・Theory, Culture & Society Center 合同会議

「グローバル化時代の知の構築」(Knowledge Formation in the Age of Globalization)

日時：2003 (H15) 年 10 月 16 日 (木)

場所：佛教大学・1 号館 5 階・大会議室

発表者：三谷憲正（ミタニノリマサ）……研究班主任（本学教授）

発表題目：総合雑誌・博文館『太陽』における〈京都像〉—明治期を中心として

作家の菊池昌治氏は『京都文学巡礼』の冒頭で、明治・大正・昭和、いつの時代をとっても文学者たちは〈今見て置かないと“古きよき時代の京都”はなくなる〉と警鐘を鳴らしている様子を紹介している。すなわち、谷崎潤一郎は「東京は勿論の事、奈良へ行つても鎌倉へ行つても、過去の時代の面影は、跡方もなく現代の勢力の下に蹂躪されて了つて居るが、京都は比較的此の憾みが少い。尤もつい近頃は、市有電車が始まつて、ドシドシ旧態が破壊されつゝあるから、京都の昔を偲ぼうと思ふ者は、一日も早く遊覧に出かけるのが肝腎である」(『朱雀日記』一九一一年)と言い、また永井荷風は「十年前の光景に比較すれば京都らしい閑雅な趣を失つた処も少くはない。(…)京都の市街はこの後果していつまで過去及現在の幽静閑雅の趣を持続し得るものであらう」(「十年振」一九二二年)と語っている。このように京都は、〈古都・旧都〉という意味合いでこれまで語られてきた。

確かに、京都は〈伝統〉の都であった。しかし、実はもう一方には〈人工〉の都市京都、という側面を持っていたのではなかったか。〈伝統〉と〈人工〉。京都の持つそのような二つの側面を、博文館の総合雑誌『太陽』で探った。

前年度一年間の「予備研究」を踏まえて、平成一六年度より三年間の「基礎研究」として新たに研究班が発足した。当初の班員は以下のとおりである（所属等は当時）。

研究組織

三谷憲正 本学教授

兼担研究員 京都・評論/（主任）「研究代表」

有田和臣	本学助教授	兼担研究員	京都・理論/「データ処理担当」
中河督裕	大府立四条畷高校教諭	嘱託研究員	近畿（大阪）/「副代表」
堀部功夫	同志社大学非常勤講師	嘱託研究員	事典項目選定/「企画運営」
外村 彰	立命館大学非常勤講師	嘱託研究員	近畿（滋賀）/「実地踏査」
越水 治	不二出版(株)京都営業所長	嘱託研究員	地方雑誌/「総務」
千 恵淑	韓国安東大学校教授	嘱託研究員	京都・近代口承文芸(1)/「海外」
姜 秦玉	韓国梨花女子大学校教授	嘱託研究員	京都・近代口承文芸(2)/「海外」
吉村裕美	大学留学生センター専任講師		
		嘱託研究員	京都・小説/「研究会記録整理」
高場秀樹	本学非常勤講師	嘱託研究員	京都・美学/「連絡担当」
日比嘉高	京都教育大学専任講師	嘱託研究員	京都・洛南地区/「実地踏査」(2)
天野知幸	日本学術振興会特別研究員		
		嘱託研究員	京都・洛中地区/「研究会記録整理」(2)
青木京子	大阪医療福祉専門学校非常勤講師		
		嘱託研究員	京都・洛西地区/「企画運営」(2)
安福智行	神戸大学職員	研究協力者	京都・洛北地区/「実地踏査」(3)
渡邊浩史	総合研究所研修員	オブザーバー	

第一回研究会

日時：2004（H16）年5月16日（日）午後2時

場所：佛教大学図書館5階・特別会議室

発表者：三谷憲正（ミタニノリマサ）……研究班主任（本学教授）

発表題目：研究の概要とその目的

発表者：外村 彰（トノムラアキラ）……嘱託研究員（立命館大学非常勤講師）

発表題目：室生犀星と〈京都〉

前半は主任の三谷より、「研究の概要とその目的」の説明。続いて、外村氏は犀星と〈京都〉との関係につき、年譜的事実および〈京都〉の登場する作品群について詳細な資料を提示し、「庭園」との関わりで発表をした。

第二回研究会

日時：2004（H16）年7月31日（土）午後2時

場所：佛教大学・図書館5階・特別会議室

発表者：堀部功夫（ホリベイサオ）……嘱託研究員（同志社大学非常勤講師）

発表題目：歌舞伎化された『西国立志編』

発表者：渡邊浩史（ワタナベヒロフミ）……本学大学院博士課程

発表題目：中原中也と〈京都〉

堀部氏はサミュエル・スマイルズ著『西国立志編』（中村正直訳、明治四年）中の京都で上演された二つの話について、歌舞伎に選ばれた理由として、当時の京都における地場産業振興と小学校設置に大きな関係があったのではないかと、という洞察を示した。また渡邊氏の発表は中也の描いた〈京都〉のイメージを当時の地理的な状況を詳しくたどったものであった。

第三回研究会

日時：2004（H16）年9月23日（木・祝）午後2時

場所：佛教大学・図書館5階・特別会議室

発表者：谷口慎次（タニグチシンジ）……本学大学院博士課程

発表題目：谷川徹三と〈京都〉

発表者：中河裕裕（ナカガワヨシヒロ）……嘱託研究員（大阪府立四條畷高校教諭）

発表題目：国会図書館蔵書に見える〈古都〉

谷口氏は、谷川俊太郎の父・谷川徹三の京都時代を取り上げ、主として西田幾多郎との関係について発表した。中河氏はいつから〈京都〉は〈古都〉となるのかという問題を、国立国会図書館所蔵の書名からアプローチした、興味深い発表を行った。

第四回研究会

日時：2004（H16）年11月3日（水・祝）午後2時

場所：佛教大学・8号館4階・第5会議室

発表者：松田 忍（マツダシノブ）……本学通信制大学院修士課程

発表題目：谷崎潤一郎と〈京都〉—『朱雀日記』から『青春物語』へ

発表者：越水治（コシミズオサム）……嘱託研究員（不二出版京都営業所長）

発表題目：プランゲ文庫に見る京都の文芸雑誌

松田氏は二〇年の開きがある二作を対比し谷崎の京都理解の深化を述べた。越水氏は占領下、GHQで民間検閲局歴史部長だったG. W プランゲの収集した雑誌に着目し、概要を紹介した。

第五回研究会

日時：2005（H17）年1月22日（土）午後2時

場所：佛教大学・図書館5階・特別会議室

発表者：中河督裕（ナカガワヨシヒロ）……嘱託研究員（大阪府立四條畷高校教諭）

発表題目：京都・昭和初年代

発表者：吉村裕美（ヨシムラヒロミ）

……嘱託研究員（大阪大学留学生センター専任講師）

発表題目：〈三年峠〉序論

発表者：河野仁昭（コウノヒトアキ）……ゲストスピーカー（日本ペンクラブ会員）

発表題目：夏目漱石と〈京都〉

中河氏は国定教科書・書籍・新聞の〈古都〉について。吉村氏は清水寺付近の「三年坂」の伝説について。また河野氏は漱石の京都像について、それぞれ、大変魅力的な発表を行った。

一七年度、すなわち第二年度の研究活動は次のとおりである。記録風に日時・会場・発表者・題目のみ掲げる。

第六回研究会

日時：2005（H17）年5月14日（土）午後2時

場所：佛教大学・8号館・第5会議室（8号館4階）

研究班の趣旨及び事務的な体制の説明・各自の紹介・発表の順番決定

発表者：三谷憲正（ミタニノリマサ）……主任研究員（本学教授）

発表題目：「博文館『太陽』における〈京都〉表象」

第七回研究会

日時：2005（H17）年7月30日（土）午後2時

場所：佛教大学・図書館5階・特別会議室

発表者：堀部功夫（ホリベイスオ）……嘱託研究員（同志社大学非常勤講師）

発表題目：山田一夫について―「蹴鞠」を中心として

第八回研究会

日時：2005（H17）年9月23日（祝・金）午後2時

場所：佛教大学・8号館4階・第5会議室

発表者：外村 彰（トノムラアキラ）……嘱託研究員（立命館大学非常勤講師）

発表題目：井上立士の文学—小伝と「休止符！」—

発表者：日比嘉高（ヒビヨシタカ）……嘱託研究員（京都教育大学専任講師）

発表題目：傍流に生きる—菊池寛「身投げ救助業」と琵琶湖疏水

第九回研究会

日時：2005（H17）年11月3日（木・祝）午後2時

場所：佛教大学・図書館5階・特別会議室

発表者：三谷憲正（ミタニノリマサ）……主任研究員（本学教授）

発表題目：博文館『太陽』における〈京都〉—明治三〇年前後を中心として

発表者：長友千代治（ナガトモチヨジ）……ゲストスピーカー（本学教授）

発表題目：京都の出版—江戸から明治へ

第十回研究会

日時：2006（H18）年1月28日（土）午後2時

場所：佛教大学・8号館4階・第5会議室

発表者：三ツ井崇（ミツイタカシ）

……ゲストスピーカー（早稲田大学文学学術院 COE 客員助教授）

発表題目：植民地期朝鮮における朝鮮語教育と朝鮮語教科書の位相

—「三年峠」採用の経緯と背景に関する覚書

発表者：千恵淑（チョンヘスク）……嘱託研究員（韓国安東大学校教授）

発表題目：韓国における「三年峠説話」の伝承と変異

発表者：中河督裕（ナカガワヨシヒロ）……嘱託研究員（大阪府立四條畷高校教諭）

発表者：吉村裕美（ヨシムラヒロミ）

……嘱託研究員（大阪大学留学生センター専任講師）

共同発表題目：日本における「三年坂」

第十一回研究会

日時：2006（H18）年3月11日（土）午後2時

場所：佛教大学・図書館5階・特別会議室

発表者：天野知幸（アマノチサ）……嘱託研究員（日本学術振興会特別研究員）

発表題目：戦争の〈記憶〉と京都

発表者：上野 潤（ウエノジュン）……ゲストスピーカー（本学非常勤講師）

発表題目：京都における尹東柱^{ユンドンジュ}

今年度は特に「さんねんとうげ」について日韓双方でのシンポジウムを試みた。本研究班がなぜ韓国固有の昔話のように教科書に採用されている「さんねんとうげ」にこだわったかと言えば、それは清水寺近くに「三年坂」（別名産寧坂）があり、そこには渡来人が住居していたとされる点からである。その坂で転ぶと三年以内に死ぬという伝承は、既に江戸期の書物に確認できる。のみならず、日本各地に「三年坂」伝説は残っている。一方韓国では「さんねんとうげ」の伝承地は数例にとどまっている。本研究班の仮説は、近代のどこかで実は清水寺近辺の「三年坂」伝承が朝鮮半島へ渡り、それが逆輸入された可能性を考えている。

三年目である一八年度も前年度の成果を踏まえ以下のような活動を行った。

第十二回

日時：2006（H18）年5月13日（土）午後2時

場所：佛教大学・8号館4階・第5会議室

発表者：高場秀樹（タカバヒデキ）……嘱託研究員（本学非常勤講師）

発表題目：三島由紀夫『金閣寺』の〈京都〉像

発表者：青木京子（アオキキョウコ）……嘱託研究員（本学非常勤講師）

発表題目：『暗夜行路』の〈京都〉像―「志賀直哉日記」を手がかりとして

第十三回

日時：2006（H18）年7月29日（土）午後2時

場所：佛教大学・図書館5階・特別会議室

発表者：堀部功夫（ホリベイサオ）……嘱託研究員（同志社大学非常勤講師）

発表題目：京都刊行の詩誌『詩人』について

発表者：杉山欣也（スギヤマキンヤ）……ゲストスピーカー（筑波大学非常勤講師）

発表題目：「潮騒」の修学旅行―記憶と忘却の京都

発表者：池内輝雄（イケウチテルオ）……ゲストスピーカー（帝京大学教授）

発表題目：『暗夜行路』のなかの〈京都〉―「仏法双六」の世界

第十四回

日時：2006（H18）年9月23日（土・祝）午後2時

場所：佛教大学・図書館5階・特別会議室

発表者：佐藤良太（サトウリョウタ）……本学大学院博士課程

発表題目：夏目漱石「京に着ける夕」をめぐって

発表者：渡邊浩史（ワタナベヒロフミ）……嘱託研究員（本学非常勤講師）

発表題目：中谷孝雄と〈京都〉—『春の絵巻』を中心として

発表者：坪内稔典（ツボウチトシノリ）……ゲストスピーカー（本学教授）

発表題目：村山古郷とその兄弟

第十五回

日時：2006（H18）年11月3日（金・祝）午後2時

場所：佛教大学・図書館5階・特別会議室

発表者：外村 彰（トノムラアキラ）……嘱託研究員（立命館大学非常勤講師）

発表題目：伊藤茂次のこと一流れ者の酒詩人—

発表者：河野仁昭（コウノヒトアキ）……ゲストスピーカー（日本ペンクラブ会員）

発表題目：明治初期京都の出版事業と文学活動

第十六回

日時：2007（H19）年2月17日（土）午後2時

場所：佛教大学・図書館5階・特別会議室

発表者：日比嘉高（ヒビヨシタカ）……嘱託研究員（京都教育大学助教授）

発表題目：「檸檬」の空間論

発表者：中河督裕（ナカガワヨシヒロ）……嘱託研究員（大阪府立四條畷高校教諭）

発表題目：『暗夜行路』—謙作の京都の住まい

発表者：古郡康人（フルコオリヤスヒト）

……ゲストスピーカー（静岡英和学院大学教授）

発表題目：高樹のぶ子「氷炎」—氷見子の行方

発表者：鄭滢（チョンヒョン）

……ゲストスピーカー（韓国・檀國大學校日本研究所所長）

発表題目：植民地期〈朝鮮日報〉〈東亜日報〉の記事に見る京都表象

—東京と大阪との比較を通して

総研研究成果発表会

日時：2007（H19）年2月22日（木）午後2時

場所：佛教大学・1号館2階・礼拝室

発表者：三谷憲正（ミタニノリマサ）……主任研究員（本学教授）

発表題目：〈京都〉とは何か—その表象をめぐって

発表者：外村 彰（トノムラアキラ）……嘱託研究員（立命館大学非常勤講師）

発表題目：〈京都〉と近代文学—室生犀星・井上立士・伊藤茂次，そして岡本かの子

本年度も引き続き、京都と関係の深い近代の文学作品を中心として、そこに描かれた〈京都像〉を探ってきた。中でも志賀直哉『暗夜行路』は「後編 第三」が京都を舞台として大きく作品世界の空間が回転するためか、三本の報告がなされた。青木氏の論は志賀の「日記」と作品世界を対比させて近代都市としての〈京都〉像の抽出を企図したものであり、また中河氏の『『暗夜行路』—謙作の京都の住まい』は、伝記的事実としての「衣笠園」の特定を行い、さらには池内氏の『『暗夜行路』のなかの〈京都〉—「仏法双六」の世界』では、直哉と仏教との関わりから説き起こし、『暗夜行路』「第三」が「仏法双六」、すなわち六道を彷徨したのち浄土（極楽）で上がる双六のように動いているのではないか、という新たな視点を提起したものであった。

以上、京都をめぐって多くの文学者とその作品について研究会を重ねてきたが、その成果が『別冊 紀要』となる。研究班の主任としても楽しみである。

（ミタニ ノリマサ 兼担研究員）